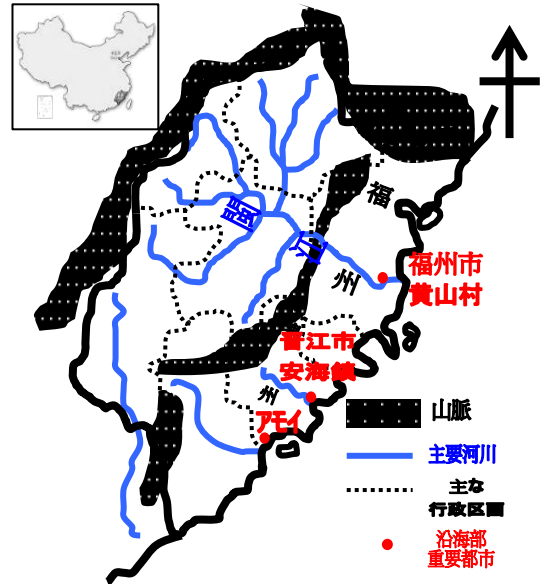


近世、福建沿岸地域における「境」の形成  
——辺境で起きた衝突と防衛の視点から——

0. はじめに

福建地域社会の研究

- 福建の地理的特徴：山脈に囲まれ、東南アジアに面する  
⇒海外貿易が盛んになる、密貿易と海賊行為の頻発
- 福建の信仰的特徴：儒教+仏教+道教+アニメズム+先祖崇拜  
⇒汎神論



1. 今までの研究

a. 中国の「神廟」とは？

集落で祀った神が、人格神になると神像とそれを収納する屋舎が作られ、これを神廟と言う。  
→地方神は境域を守護し、地縁的な人間関係の核となる。[上田信 2002 : 145]

b. 「境」とは？

祭祀圏＝地方神の管轄範囲＝地方神の巡回範囲 →祭祀者の居住区画/範囲  
福建沿海地域と臺灣の西部沿海部のみに多数存在

c. ケーススタディが進めてきた e.g. 莆田 [鄭 2002] ; 安海鎮 [聶 1997] ; 陽村 [張 2002] ; 台南 [林 2009]

福建の基礎社会を研究する際に、いまだ重視されていないのが現状

2. 問題の所在と研究手法

a. 境界線

境界線の存在は指摘されたが、具体的な表現と形成過程？歴史的背景？

b. 都市部の境と農村部の境の異同

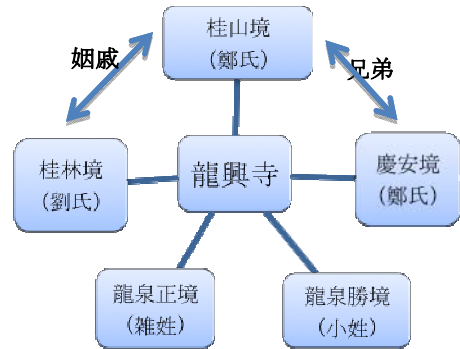
面している基層社会が異なる → 同じく取り扱えない

c. 「境」から見る集落の秩序を復元

3. 調査結果

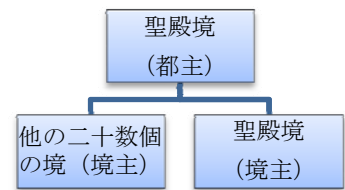
a. 黄山村

- 概観：農業を主な生業とする小規模な集落
- 五つの「境」で構成、最大の三つの「境」は単姓集落である桂山境・慶安境・桂林境  
→血縁関係・入居権を重視
- 兄弟が分家した結果、桂山境・慶安境が形成→明確な境界線が存在（石畳の道）
- 共同祭祀：龍興寺+儀式、全域から寄付金を貰える  
→宗族より一個上に存在する壊せない地縁集団 →社会的共同性



b. 安海鎮

- 概観：沿海部に位置する商業を主な生業とする街、人口流動が激しい
- 数十の「境」で構成、人口に増減に従い、「境」数も変化：(15c) 18→ (17c) 24→ (19c) 34→ (20c) 24
- 文献史料と碑文の比較  
→「境」の原型は明代初期（15世紀）の都市区画制度「坊」から由来  
→変化：頻発する海賊や地域紛争に影響され、境を基本単位とする防衛区画が誕生、「隘門」が境界線のシンボル ⇒民国初期保甲制度、「境」に基づき前期を三分
- 端午節の巡回：都市全域を巡回、唯一すべての「境」民から寄付金を貰える「境」の主神が「聖殿境」⇒「境」の主神を統括する上位神（民間） cf.安海鎮は八都（官）  
→民間社会が自ら地方秩序を形成・表現



4. 結論

- 境界線：現地の人に明確に認識、地方自衛によって再強調された
- 「境」＝個別宗族・家族（血縁関係）を超えた存在、独自性を有する  
「境」の結合：郷村部-血縁関係と正統な入居経緯が強調

都市部-「境」の聯合が人々の鎮民意識を強化、防衛と災害に備える

5. 参考文献

張小軍 2002, 「陽村的境社與宗族：一個文化場的觀點」 『民俗曲藝』 138, pp. 199-238  
鄭振滿 1995, 「神廟祭典與社區發展模式—莆田江口平原的例證」 『史林』 1995 (1), pp. 33-47+111.  
林明璋 2009, 『近代都市街道規劃對台南府城總爺街區空間開發的衝擊』 成功大学, 修士論文.  
上田信 2002, 「宋—明代の民俗宗教」 社会経済史学会編『社会経済史の課題と展望』 東京：有斐閣, pp. 141-151  
聶莉莉 1997, 「閩南農村における神々信仰：福建省晋江市農村での実地調査に基づいて」 『国立民族学博物館研究報告』 22 (3), pp. 585-659.